



「今の自分」と「なりたい自分」

学校長 海津 善宜

立冬を間近に控え、朝夕が肌寒くなり、もう一枚羽織る上着がほしくなる季節になりました。子どもたちは、寒さなどものともせず、休み時間には、校庭に飛び出し元気な姿を見せてくれています。また、上郷音楽会に向けて、音楽室や体育館から素敵な歌声が聞こえてくるようになり、子どもたちがまっすぐな心で音楽会を成功させようとしている姿が見られます。

10月のTV朝会で「来年の3月になりたい自分」をイメージして一日一日を大切に過ごしていこうという話をしました。「今の自分」を「なりたい自分」に近づけるには、どうしたらいいでしょう。ずいぶん前のことになりませんが、ある自動車会社のCMに次のようなセリフがありました。

「イチローが嫌いだ。あの人を見ていると限界という言葉が言い訳みたいに聞こえるから。」

「イチローが嫌いだ。あの人を見ていると自分に嘘をつけなくなるから。」

「イチローが嫌いだ。あの人を見ていると努力すら楽しまなきゃいけない気がするから。」

「イチローが嫌いだ。あの人を見ているとどんな逆風もチャンスに見えてくるから。」

「イチローが嫌いだ。」のフレーズに賛否両論があり、記憶に残っている方も多いと思います。この「イチロー」とは、日本のみならず、アメリカでも大活躍して功績を残し、尊敬を集めるプロ野球選手です。公に「嫌いだ」と語る4人は、当時の日本代表のアスリートです。そして、そのアスリートたちは、次の言葉で力強く結びます。

「でも、同じ人間のはずだ。」

イチロー選手にできるのだから、自分にできない理由はないという強い意志を感じる言葉です。このCMはイチロー選手の批判をしている訳ではなく、むしろイチロー選手の今までの功績や野球へ取り組む姿勢に対し最大級の称賛を送っているもので、それはそのまま私たちにも当てはまる言葉なのかもしれません。「どんな状況やどんな環境、さらにはどんな年齢になったとしても前を向いて、努力し続けることでしか何かを成し遂げることはできない。」ということです。しかし、努力の押し売りはいけません。周りから見えるような大きな取組をする人、気づかれなような小さな取組を続けていく人など努力の仕方は人それぞれです。「継続は力なり。」努力を続けるには、自分らしさが失われないように負荷をかけすぎず、自分に合った努力の仕方が良いのかもしれませんが。今年度も、半分が過ぎましたが、来年の3月に子どもたちが「今の自分」を「なりたい自分」に少しでも近づけられるように学校全体で支えていきます。地域の皆様、保護者の皆様におかれましても子どもたちの追い風になってくださいますようお願いいたします。

51

小さい秋 見つけた

園芸ボランティア

10月12日、学校ボランティア登録をいただいた方から8名が園芸ボランティアとして西門・南門の花壇の手入れと季節の花を植えてくださいました。きれいに植えられた花々は、まるで登校する子どもたちを笑顔で出迎えてくれているように感じます。また、先月号でも紹介した「野草園」では、季節もかわり秋の野草が花を咲かせています。先日、シソ科の多年草で枯れた茎に霜柱（霜華）が出来ることで知られる「シモバシラ」の白くてかわいい花も見ることができました。みなさんも野草園で小さな秋を見つけていただければと思います。

